

登録日 2014/4/18

登録番号 Sar003(患者限定)

腫瘍名 肉腫

申請科 産婦人科

投与スケジュール

Mesna+ADM+IFO+DITC			28日毎						
			1コース				2コース	(day)	
			1	2	3	4	29	...	
①	デキサート グラニセトロン 生理食塩水	9.9 mg 1 mg 50 mL	点滴 15分	↓	↓			↓	
②	デキサート パロノセトロン 生理食塩水	9.9 mg 0.75 mg 50 mL	点滴 15分			↓			
③	ダカルバジン 注射用水 生理食塩水	300 mg/m ² (100mg/Vあたり10mLで溶解) 100 mL	点滴 15分	↓	↓	↓		↓	
④	イホマイド 生理食塩水	2 g/m ² 500 mL	点滴 4時間	↓	↓	↓		↓	
④'	ウロミテキサン 生理食塩水	400 mg 50 mL	側管 15分 (④と同時に投与)	↓	↓	↓		↓	
⑤	アドリアシン 5%ブドウ糖	20 mg/m ² 50 mL	点滴 全開	↓	↓	↓		↓	
⑥'	ウロミテキサン 生理食塩水	800 mg 50 mL	側管 15分 (アドリアシン投与終了後、すぐに投与)	↓	↓	↓		↓	
⑥	ソルデム3A 7%メイロン	500 mL 20 mL	点滴 3時間	↓	↓	↓		↓	
⑦	ソルデム3A 7%メイロン	500 mL 20 mL	点滴 8時間	↓	↓	↓		↓	
⑧	ウロミテキサン 生理食塩水	800 mg 50 mL	側管 15分 (イホマイド投与終了時点から4時間後に投与)	↓	↓	↓		↓	
⑨	ソルデム3A	500 mL	点滴 8時間 (翌日メインまでキープして投与 速度調整可)	↓	↓	↓		↓	

注意事項

- ・適用条件: 2nd line以降の使用。50歳以上の症例では重症感染症に十分注意して投与する。
WBC: 3000/ μ L以上、血小板: 10万/ μ L以上
クレアチニン・ビリルビン・AST: 施設基準の1.5倍以下
- ・副作用対策
 - 1)ダカルバジン投与中、血管痛発現時は適宜、投与時間を延長してみる。
投与中は溶解液、投与ルートともに遮光する(光で分解され発痛物質が出現する)。
 - 2)膀胱炎予防のウロミテキサンは、イホマイドの投与時、4時間後、8時間後に投与する。
ウロミテキサンの1日投与量は、イホマイドの1日投与量の60~100%の範囲とする。
1日尿量は3L程度を目安とする。
 - 3)重篤な骨髄抑制のリスクがあるため、Day8~10でG-CSF(ノイトロジン100 μ g)を予防投与する。

参考文献

A intergroup phase III randomized study of doxorubicin and dacarbazine with or without ifosfamide and mesna in advanced soft tissue and bone sarcomas, J. Clin. Oncol., vol.11, No.7: 1276-1285, 1993